

アンケート結果におけるポイント

- 80 歳以上では「ひとり暮らし」が 2 割以上を占める。(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 8～9 ページ)
 - 80～84 歳では 22.1%、85 歳以上では 21.3%が「ひとり暮らし」を選択。
 - 85 歳以上では「息子・娘の 2 世帯」が 31.4%となっており、家族との同居を選択する人も多いことがうかがえる。
- 高齢になるにつれて外出頻度は減少。(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 23～26 ページ)
 - 85 歳以上では昨年よりも外出が“減っている”と回答した人の割合が 55.0%となっている。外出を控えている人の割合も高齢になるにつれて高くなっている。
 - 外出を控える理由として、「新型コロナウイルス感染症が心配」が圧倒的多数を占める。令和 5 年 5 月に感染症法における 5 類に移行したことで、外出や社会活動における制限は大幅に軽減されたことで、外出を控える割合は今後減少する可能性がある。
- 外出の際の移動手段として「自動車（自分で運転）」が第 1 位。(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 27～32 ページ)
 - 85 歳以上では「自動車（人に乗せてもらう）」が第 1 位となっているが、それ以外の年齢ではいずれも自分で自動車を運転している人が最多。
 - 将来的に運転免許証を返納したいと考える人は全体の 27.9%。80 歳未満では「返納する気はない」人が 5 割以上を占めている。特に男性では返納意向が低い。
 - 返納した場合の移動手段として「徒歩」「路線バス・コミュニティバス」「自動車（人に乗せてもらう）」が上位を占める。特に滝呂包括、笠原包括では「路線バス・コミュニティバス」が第 1 位となっており、特に公共交通のニーズが高いエリアであることがうかがえる。
- 介護予防のための通いの場に「参加していない」人が全体の 70.9%。(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 73 ページ)
 - スポーツ関係のグループ、趣味関係のグループや町内会・自治会等に参加する人は多い。
 - 地域活動への参加意向はいずれの地区でも「是非参加したい」が 1 割弱、「参加してもよい」が 5 割前後を占める。企画・運営としての参加については、北栄包括で「参加してもよい」が 42.5%と他の地区よりも高い割合を占めている。
- 現在治療中または後遺症のある病気については、「高血圧」が第 1 位。(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 100～101 ページ)
 - いずれの属性でも「高血圧」が最多となっている。

- 人生の最終段階について「話し合ったことはない」が全体の 61.7%。(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 107～108 ページ)
 - 特に笠原包括では「話し合ったことはない」が 67.4%と他の地区よりも高くなっている。

- 主な介護者のうち、介護と就労を継続していくことができると考える人は全体の 70.3%。(在宅介護実態調査 130・132 ページ)
 - 「問題はあるが、何とか続けていける」が 44.4%、「問題なく、続けていける」が 25.9%。3 割程度の人は続けていくのが難しいと考えている。
 - 主な介護者が、働き方の調整を「特に行っていない」割合は 51.9%となっており、介護休業や短時間勤務等の制度を使っていない人が少なくないことがうかがえる。

- 主な介護者が行っている介護のうち、多いのは「外出の付き添い」や「掃除、洗濯、買い物等の家事」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」などとなっている。(在宅介護実態調査 123・132 ページ)
 - 在宅生活を継続する上で主な介護者が不安に感じる介護は、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」、「日中の排泄」などの割合が高い。これらを解消するサービス(24 時間対応の定期巡回・随時対応サービス)の充実が、介護を必要とする人であっても、在宅生活を継続するために必要と考えられる。
 - また、外出の付き添いについても不安を感じる介護者も多いことから、公共交通も含めた移動支援も在宅生活の継続に不可欠となっている。